

事業の背景・目的

国内希少野生動物種**エラブオオコウモリ**は、口永良部島に多く、トカラ列島にも生息しています。口永良部島では、火山活動や、ノヤギ、ヤクシカの増加、持ち込まれた外来種ヤクシマザルの生息などがあり、本亜種の生息環境が悪化しています。一方、トカラ列島でも、かつて生息していた島々から本亜種が姿を消すなど、生息域の狭小化と個体数の減少がみられます。本亜種が自然状態で安定的に存続するには、これら島嶼での生息環境の保全と、それを効果的にする広域的な視点から啓発活動に取り組むことが重要となります。そこで、本事業では、生息域住民が研究者と協働して本亜種の生息状況を把握し、遺伝子情報を明らかにすることで、今後の保全・啓発活動に生かし、生息に適した環境の維持・改善に対処し、本亜種の絶滅を阻むことを目的にしています。

事業の内容

生息状況の把握

生息地域であるトカラ島嶼（悪石島、平島、中之島）での目視調査と食痕調査から、生息頭数やねぐら、採食地など生息状況を調査しました。これまでの口永良部島のデータと合わせ、本亜種の保全と啓発を進めるための基礎資料とします。かつて生息しながら**非生息地**となった口之島、諏訪瀬島、宝島、小宝島においても目視・食痕調査を行い、非生息を確認しました。また、住民アンケートを実施し、これまでの生息情報と保全意識を調査しました。本亜種が棲むトカラ島嶼と口永良部島での広域的、総合的な調査は初めてのことで、調査の成果は学術誌に投稿中です。また、遺伝子情報は今後2年かけて収集します。

生息環境の保全

被食樹木の植樹とヤクシマザルの捕獲

口永良部島では、人口減少で増加したノヤギやヤクシカによる林床植生の食害や、火山活動や台風で樹林が荒廃しています。本亜種のネグラや給餌場の回復のために**エサになる木の植樹**を行いました。また、外来種の**ヤクシマザルの捕獲**をはじめました。エラブオオコウモリとねぐらやエサが競合するため悪影響が心配されるためです。

周知普及・啓発事業

トカラ列島と口永良部島で、住民や小中学校の学童・生徒、来島したパークボランティアの皆



さんを対象にして、学習・講演会では本亜種の生態を紹介し、保全や啓発活動の重要性を説明しました。

得られた成果

本亜種が生息しているトカラ島嶼（中之島・平島・悪石島）に、飛翔や被食樹にぶら下がる個体の行動を観察できる場所や生態を案内する**看板**を設置しました。



本亜種を分かりやすく説明し、観察できる場所を記した**観察ガイドブック**と**リーフレット**を作成しました。



生息する4島（中之島、平島、悪石島、口永良部島）で収集した本亜種の食痕や糞のDNA分析を行いました。ミトコンドリアDNA分析及びマイクロサテライト分析をして本亜種の遺伝的多様性と各個体群間の遺伝子流動を明らかにするなど**遺伝子情報を把握**しました。今後は、特に孤立した個体群である本亜種が遺伝的に劣化した個体群なのかどうかを明らかにし、保全のために役立てます。